

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18520532  
研究課題名（和文） 康熙朝後半における内陸アジア政策の多元性と側近政治に関する研究  
研究課題名（英文） Research on the pluralistic policy toward inner Asia and the government by the Emperor's aides in the later Kangxi era

研究代表者 楠木 賢道（KUSUNOKI YOSHIMICHI）  
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・准教授  
研究者番号：50234430

研究分野：内陸アジア史・清朝史  
科研費の分科・細目：史学・東洋史  
キーワード：内陸アジア史・清朝史

### 1. 研究計画の概要

清朝皇帝は、支配対象に合わせて言語や価値体系の内容を自在に切り替えることにより、多民族を円滑に支配したのであり、対する民族の如何によって自在にその姿を変える満洲王朝の多元性こそが、清王朝の本質である。本研究では、清朝皇帝はなぜ、支配対象に合わせて言語や価値体系の内容を自在に切り替えることが可能だったのかを、康熙朝後半の内陸アジア政策を例にとりながら、康熙帝の側近として活躍したモンゴル人チベット仏教僧シャンナン=ドルジ及びチャハル部に出自を持つ蒙古旗人官僚アナダに着目して検討していく。

### 2. 研究の進捗状況

中国第一歴史档案馆所蔵の康熙朝満文硃批奏摺所収の、西寧に駐筈したモンゴル人チベット仏教僧シャンナン=ドルジによって記された満洲語の奏摺、合計 68 件の翻訳を完成させた。これに基づき、ダライ=ラマ 6 世の宗教的特権放棄、サンゲ=ギャムツォによるラサン=ハン毒殺未遂事件、ラサン=ハンに

よるサンゲ=ギャムツォ殺害事件を、康熙帝の側近として活躍したモンゴル人チベット仏教僧シャンナン=ドルジを通じて、いち早く康熙帝が正確な情報を得ていたことを解明した。また、これとは別に、やはり側近である蒙古旗人官僚の侍読学士薦良をシガツェのパンチェン=ラマまで派遣するという名目で、ラサを經由させ、ラサン=ハンによるサンゲ=ギャムツォの殺害事件の情報を収集させている。このように、いずれもモンゴルに出自を持ちながら違う立場の側近を用いて同じ事件に対して異なる方向からの情報を康熙帝は収集していたのである。その成果を平成 20 年刊行の細谷良夫編『清朝史のあらたなる地平』（山川出版社）に「清朝档案史料からみたサンゲ=ギャムツォ殺害」と題する論文で発表した。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

すでに、研究の進捗状況で記したような、本研究課題に関わる本質的な論文を発表することができたからである。

筑波大学東京キャンパス, 2008年8月2日.

さらに江戸時代の日本の知識人も、清朝が内陸アジア的な王朝であること、側近を重用した統治を行ったと理解していたことを明らかにする2本の論文を発表(印刷中)することができたからである。これは、計画以上の新たな研究の展開である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今後は、側近たちが康熙帝への情報伝達手段として用いる奏摺に記されている情報と、事件の当事者たちが公式ルートで報告を行う題本・表文によって、特定の事件に関する情報がどのように異なるのか、それはなぜなのかを探究し、側近を用いた内陸アジア政策の有効性と限界について検討し、研究課題を総括していく。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 楠木賢道 「『二国会盟録』からみた志筑忠雄・安部龍平の清朝・北アジア理解——江戸時代知識人の New Qing History? ——」 『社会文化史学』第52号, 2009年5月刊行予定(印刷中), 査読あり.
- ② 楠木賢道 「江戸時代知識人が理解した清朝——日清関係の一側面」 『別冊 環 清朝とは何か』第16号, 2009年4月刊行予定(印刷中), 査読あり.
- ③ 楠木賢道 「清朝檔案史料からみたサンゲ・ギャムツォ殺害」 細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平』山川出版社, 2008年2月, 163-187頁, 査読なし.

[学会発表] (計1件)

- ① 楠木賢道 「『二国会盟録』からみた志筑忠雄・安部龍平の清朝・北アジア理解——江戸時代知識人の New Qing History? ——」 社会文化史学学会第44回大会,